

【薬剤師から女性アスリートおよび関係者の皆様へ】

～月経痛とうまくつきあっていくために～

(この内容は2020年1月1日から2020年12月31日まで有効)

(公財)日本水泳連盟アンチ・ドーピング委員会

月経痛の影響で、普段の練習や大会で本来のパフォーマンスを発揮出来なかった経験はありませんか？ここでは、月経痛に対するお薬の一例を紹介します。

<月経痛の治療薬は？>

月経痛の治療薬には大きくわけて、次の2つがあります。

①痛み止め

月経痛になったら、なるべく早く痛み止めを飲むことをお勧めします。

・病院や薬局でもらう場合

カロナール[®]錠(アセトアミノフェン) ロキソニン[®]錠(ロキソプロフェン) ボルタレン[®]錠(ジクロフェナク) など ()内には薬の成分名を記載してありますが、ジェネリック医薬品の販売名にも用いられています。

・ドラッグストアで購入する場合

(公財)日本水泳連盟のホームページ(http://www.swim.or.jp/about/anti_d.php)にある

<いつでも使える薬の例>に載っている痛み止めを参考に購入しましょう。

※ ここに挙げたものだけがすべてではありません。他にも数多くあるので、ドーピング防止に詳しいスポーツファーマシストにご相談ください。(公財)日本水泳連盟のホームページの【薬の相談窓口】もご利用ください。

②LEP 配合薬 (いわゆる低用量ピル)

月経痛が強い、痛み止めが効かない、月経痛の治療をしながら試合や練習日程に合わせて、きて欲しい時期に月経を起こしたい選手などに勧められます。



ヤーズフレックスTM配合錠



ヤーズ[®]配合錠



ルナベル[®]配合錠ULD



ルナベル[®]配合錠LD

通常、吐き気や頭痛は1週間以内におさまることがほとんどです。不正出血は数ヶ月続くことがありますが、継続していくうちに頻度は減っていきます。吐き気などの副作用がでた場合を想定し、目標とする試合の少なくとも2～3ヶ月前までには服用を始めることをお勧めします。また、大会の時期と生理(月経)が重なりそうな場合には、事前に生理をずらすことも可能ですので早めに産婦人科を受診し医師に相談しましょう。

【女性アスリートや関係者の皆様にお勧めの動画・ハンドブック掲載サイト】

<http://femaleathletes.jp/index.html>

【参考・引用文献】

・公益財団法人 日本水泳連盟：水泳選手のためのアンチ・ドーピングのい・ろ・は

【監修】

(公財)日本水泳連盟 医事委員会 能瀬さやか

作成年月日：2020年1月1日

作成者：大友謙太郎